

2022年11月フィリピン視察会報告。

この度の視察会は今までに無い少人数の参加となりましたが、視察内容としては多大の成果が上がり、参加の皆様には多くの経験と情報と各国際人材派遣会社からのMOA(送り出し費用を含めた合意書)をお持ち帰り頂きました。

先ず海外就労を志す多くのフィリピン人の教育、日本との関わりでは特定技能生の教育に関する全てを司る政府機関TESDAの中で、質においても、規模においても最も模範となる教育を実施しているバターンのTESDAを訪問致しました。フィリピンの各地に広がるTESDAの教育センターの中でも、マリベレス市にあるセンターは最も著名で、農業や電気工業また介護やと調理など多様な施設見学を行い、センター長や職員の方から、多くの説明を受けることになりましたが、その中でも韓国など日本以外からの機材や資材の寄付などによる支援や同時にこれら対象国要望を取り入れた教育の実施と送り出しの実情を知ることとなりました事は注目に値します。それら施設見学の後はTESDAと連結して来日希望者に対する日本語教育と特定機能試験対策を管轄するHALMという日本語学校の教育実情の視察と教育方法への思想を代表者に伺った後、施設の新設予定地の確認をしました。最後には応接室にて、視察団とTESDA・日本語学校による合同会議です。忌憚りの無い両者の意見が交換される中で特筆すべきは、送り出し側に関与して人間を育てつつ合目的に受け入れ側にて雇用する発想の日本側の欠落でした。教育を司るTESDAとしては日本国に対して不足する教育機材や資材の提供や教育内容の具体的要望の提示が求められ、これらの点において韓国などの後塵を拝する我が国の受け入れ側の認識不足は改善されるべきと視察団の一致した意見です。しかしながら、いまだに労働力布告が亢進する日本国に対するフィリピンTESDAの期待値は大きく、及ばずながら参加者一同今後全力にて日本国での啓蒙活動とフィリピン特定技能生の受け入れ拡大に邁進する決意を述べられました。なお、このTESDAバターンリジョンの年間卒業生は1500名以上に及び、学習修了者には該当試験以後、海外就労には必須と定められている試験を受けて以後、国家からの認定(NC)を授与するシステムを採っています。同時に、バターンTESDAは全国に設置されているTESDAの地方組織の指導役も買っているとのことでした。

次に訪問したのは実業職の強い教育を実施しているバターン国立総合大学でした。学生の実業能力涵養のための各カテゴリー毎の教育棟見学しましたが、未だにコロナの影響にて対面教育が制限されていて学生たちに会うことは叶いませんでしたものの、自動車整備棟や四階建ての介護研修棟などを見学した後、副学長・学長との話し合いです。やはり此处でも、送り出し側と受け入れ側を一貫するシステムの構築の重要性が指摘され、それがあってこそその合目的的人材の確保が可能になるとの意見です。このコースの最後には別地区にある農業専門教育棟を見学すると共に、グリーンハウスなど実務教育の現場視察も実施しました。バターン大学は前述の日本語学校との関わりは深く来日希望する学生間日本語教育を担当しています。

当方からの上記機関に対する日本側団体紹介など計画や対応の詳細は此处では述べませんが大規模な両国機関の組み合わせの提案と実現を約束いたしました。

翌日は、予定していたラグナ州の大学訪問が前々日に行われた突然の官庁通達にて該当地域の教育機関への外来者訪問が出来なくなり、急遽私個人の旧知のアンティポロ市にあるトレーニングセンター訪問に切り替え、且つ又TESDAの本部訪問にて長官(DG)との会談と致しました。長官は日本にて長期間POLO東京のディレクターとして働いた経験を持ち、良否合わせて日本国の受け入れの実情を知る方でした。本部の実務教育の各コースを見学した後は、TESDA本部とリジョンの機能分担やリジョン権限に話が及び、バターン州TESDAとの連携に多きな示唆を得ることができました。

最終日には前日朝に訪問した総合力と政府関係機関に信頼厚いある送り出し機関に加えて、推薦を得た三社の送り出し機関訪問です。特定技能生の採用に関しては、実習制度と違い、登録支援機関との関係では複数の送り出し機関の特徴に合わせて提携することが可能であり、それぞれの機関のと得意部門や組織的特性を確認しつつ、視察団には提携先を選択するという目的にて訪問を実施しました。一社を除いて適切な自社説明を受けた視察団の方々はそのぞれ目的別に提携すべき団体を複数社選ばれたものと思います。

最後に、送り出し機関視察の中でお会いしたラグナ州の日本語学校の校長の素晴らしい日本に関する知識や会話能力に関心させられ、日本国に関する知識も日本語の会話能力も持たない社長が経営する多くの「なんちゃって日本語学校」との格差を見せつけられることになり、こうし優れた人物が経営する日本語学校に学ぶ生徒はその適性度に信頼おけるものになると確信した次第です。

視察団帰国後には予備として備えた数日をそれぞれの送り出し機関の日本担当の会話能力向上の為の教育や、紹介されたエコゾーンにて長期間特区マネージャー経験のある優秀な弁護士との会談や、この弁護士への関係者紹介などに当て、視察以外でも大きな成果が挙げられたものと思います。



日本語学校経営者J・S氏と弁護士D・C氏。
TESDAの役員・職員の皆様と



Mom ruth skill training center.





バターンTESDAの役員と職員の方々
Halm日本語学校の学生達と



バターンTESDA入口
バターンTESDA実技訓練塔内部。



HRM(ホテル・アンド・レストラン)教育コース。



第三国からの支援にて開設された座学研修室。



溶接事務教育棟内部



バター大学農学部との会談



送り出し機関ホープウェル代表との話し合い

